

伸銅品

平成18年度上期の伸銅品生産量は518千トンと、前年同期比+5.3%の増加となった。下期も上期並み523千トンの生産を前提に、18年度は1,041千トン、前年度比+3.8%の増量を見込んだ。品種別動向は以下の通り。

銅系・黄銅・りん青銅共に板条品種は、半導体・電子機器・自動車向けが昨年後半からの好調さを維持したことから、総じて大きな伸びを示した。こうした拡大基調は北京五輪('08年)や上海万博('10年)まで続く期待されるが、一方では素材の小型化や薄肉化が一層進むことも想定される。

黄銅棒は、自動車・水栓金具・バルブ・電子機器等の全分野が好調に推移し、前年を大きく上回った。黄銅棒は需要分野が広いので、従来からも底堅い分野が全体レベルを下支える傾向が見られた。中期的にも、17年度対比では安定した微増傾向を辿ることが想定される。

銅管は、ルームエアコンの国内販売が伸び悩んだことから、パッケージエアコンの底堅い需要や素管輸出の堅調な推移にも拘らず、前年度の大きな落ち込みからはやや回復したレベルに留まった。中期的には、国内のルームエアコンとパッケージエアコンが共に安定需要に移ることが想定されることから、総じて銅管は現状からの横ばい傾向を辿るものと思われる。

黄銅線は、日本製品質への期待から底堅い需要が見られ、洋白・その他も堅調に推移することが見込まれる。

こうした状況から、中期的には平成22年度の伸銅品需要は1,034千トンが見込まれ、今年度見込(18年度)からは微減するものの、平成17年度対比では年率+0.6%の着実な増加傾向を辿るものと見通した。

平成18年度需要改訂見通し・平成22年度中期見通し

| 品種  | 年度 | 17年度実績 | 18年度見込み |     |       | 前年比%  | 22年度見通し | 年率%  |
|-----|----|--------|---------|-----|-------|-------|---------|------|
|     |    |        | 上期      | 下期  | 合計    |       |         |      |
| 銅   | 板条 | 275    | 139     | 144 | 283   | +2.8  | 298     | +1.6 |
|     | 管  | 171    | 89      | 85  | 174   | +1.6  | 171     | ▲0.1 |
|     | 棒  | 39     | 19      | 19  | 38    | ▲2.1  | 38      | ▲0.7 |
|     | 線  | 6      | 3       | 3   | 6     | +6.1  | 6       | +1.2 |
| 黄銅  | 板条 | 142    | 70      | 74  | 144   | +2.1  | 136     | ▲0.8 |
|     | 管  | 16     | 8       | 8   | 16    | ▲1.6  | 16      | ▲0.4 |
|     | 棒  | 244    | 129     | 129 | 258   | +5.6  | 247     | +0.2 |
| 青銅  | 線  | 38     | 22      | 22  | 44    | +14.0 | 41      | +1.6 |
|     | 板条 | 53     | 30      | 29  | 59    | +11.4 | 60      | +2.5 |
| 洋白他 | 棒線 | 5      | 3       | 2   | 5     | ▲1.2  | 5       | +0.1 |
|     | 板条 | 13     | 6       | 7   | 13    | +2.6  | 16      | +3.3 |
| 合計  |    | 1,003  | 518     | 523 | 1,041 | +3.8  | 1,034   | +0.6 |

(注)前年比は数値を丸める前の値で計算  
(出典)実績は経済産業省、見通しは日本伸銅協会

電線

平成18年度の改訂銅電線需要見通しは89万3千トンで、対前年比+3.1%、4年連続して前年を上回ると予測した。GDPの伸びに示されるように日本経済は堅調な成長を続けており、企業の業績改善に伴う民間設備投資が好調であることなどが電線需要増加の要因である。部門別には以下の通り。

通信部門は、NTTの光化による大幅減少の後、低位安定的に推移しているが、当面大幅な減少はないと見られる。

電力部門は、電力会社の設備更新投資により'05年度は12年振りに増加に転じ、'06年度も引き続き好調の見込み。

電気機械部門は、家電関連は国内生産の伸び悩みが見込まれるが、設備投資やIT関連、電装品は好調であり、全体では前年比+3.2%と予測した。

自動車部門は、国内生産台数は1,110万台に達する見込みで、電線需要も高い水準を維持すると予測した。

建設・電販部門は、上期は民間設備投資の高い伸びが直結しない面もあったが、下期は回復が予想され39万8千トン、前年比+1.7%と見込んだ。

その他内需部門も民間設備投資の好調を受け、堅調に推移すると見込んだ。

輸出部門は、輸出環境は厳しさが続くが、足元アジア・中近東向けが好調であるので若干増加すると予測した。

中期的には、今後日本経済は緩やかな成長が持続するとの見方から、電線需要も05-10年の5年間の平均伸び率+1.4%、平成22年度は92万7千トンと、堅調に増加するものと予測した。

平成18年度改訂需要見通し・平成22年度中期需要見通し

| 部門    | 年度 | 17年度実績 | 18年度改訂見通し |     |     | 前年比% | 22年度見通し | 22/17年平均伸率% |
|-------|----|--------|-----------|-----|-----|------|---------|-------------|
|       |    |        | 上期        | 下期  | 計   |      |         |             |
| 通信    |    | 19.2   | 9         | 10  | 19  | -1.0 | 18      | -1.3        |
| 電力    |    | 71.7   | 37        | 38  | 75  | 4.6  | 80      | 2.2         |
| 電気機械  |    | 205.5  | 103       | 109 | 212 | 3.2  | 214     | 0.8         |
| 自動車   |    | 84.6   | 43        | 46  | 89  | 5.2  | 92      | 1.7         |
| 建設・電販 |    | 391.3  | 190       | 208 | 398 | 1.7  | 420     | 1.4         |
| その他内需 |    | 60.2   | 32        | 33  | 65  | 8.0  | 67      | 2.2         |
| 内需計   |    | 832.6  | 414       | 444 | 858 | 3.1  | 891     | 1.4         |
| 輸出    |    | 33.4   | 16        | 19  | 35  | 4.8  | 36      | 1.5         |
| 合計    |    | 866.0  | 430       | 463 | 893 | 3.1  | 927     | 1.4         |

(注)四捨五入のため計と合わない場合もある。  
(出典)日本電線工業会統計

鉱山

平成17年度の我が国の電気銅生産は前年度比3.0%増の142万トンであった。新居浜製錬所の能力増強による増産が精鉱品位の低下や直島、佐賀製錬所の大型定修による減産を相殺して2年ぶりの増加となった。

消費(見掛値)は0.5%増の124万3千トンと過去3年間ほぼ横ばいの推移となった。

平成17年の我が国経済は世界的な景気拡大に加え、企業収益の大幅な改善で設備投資が堅調を維持し、雇用情勢も改善傾向を辿り、輸出は円安を背景に増加し、工業生産は前半にかけてIT関連財の在庫調整の影響を受けたが、その後持ち直すなど、前年に引き続き回復軌道を辿った。こうした経済環境下、銅の主要な需要産業のうち建設業は官公需の低迷を首都圏を中心とした民間住宅投資が下支え、自動車は輸出向けを中心に引き続き好調に推移、電気機械は前半にかけてデジタル家電、半導体などIT関連財が在庫調整局面に見舞われたが、後半は急回復した。

電気銅の用途別消費(報告値)は電線向けが4.3%増の76万8千トンと3年連続で増加、伸銅品向けは0.5%減の43万9千トンと4年ぶりの減少となった。

消費以上に生産が増加したため輸入は14.0%減の7万3千トンと昭和40年度以来の低水準にとどまり、輸出は29.6%増の26万8千トンと4年ぶりに増加に転じた。

この結果、在庫は12万7千トンから10万8千トンへと14.6%減少し、在庫/消費比率は4.5週間分と年間を通じてタイトに推移した。

平成17年度電気銅需給実績

| 項目      | 16年度実績  | 17年度  |       |         | 前年比%  |
|---------|---------|-------|-------|---------|-------|
|         |         | 上期    | 下期    | 実績      |       |
| 期初在庫    | 107.4   | 127.0 | 101.8 | 127.0   | 18.2  |
| 生産      | 1,378.3 | 680.2 | 739.3 | 1,419.5 | 3.0   |
| 国内鉱出    | 0.7     | 0.0   | 0.1   | 0.1     | ▲85.7 |
| 海外鉱出    | 1,193.5 | 597.7 | 653.5 | 1,251.2 | 4.8   |
| その他出    | 184.1   | 82.5  | 85.7  | 168.2   | ▲8.6  |
| 輸入      | 85.0    | 37.4  | 35.7  | 73.1    | ▲14.0 |
| 供給計     | 1,570.7 | 844.6 | 876.8 | 1,619.6 | 3.1   |
| 消費(報告値) | 1,199.0 | 598.3 | 624.7 | 1,223.0 | 2.0   |
| (見掛値)   | 1,236.6 | 612.2 | 630.6 | 1,242.8 | 0.5   |
| 電線      | 735.9   | 374.0 | 393.6 | 767.6   | 4.3   |
| 伸銅品     | 440.9   | 217.9 | 221.0 | 438.9   | ▲0.5  |
| その他     | 22.2    | 6.4   | 10.1  | 16.5    | ▲25.7 |
| 輸出      | 207.1   | 130.6 | 137.8 | 268.4   | 29.6  |
| 需要計     | 1,406.1 | 728.9 | 762.5 | 1,491.4 | 6.1   |
| 期末在庫    | 127.0   | 101.8 | 108.4 | 108.4   | ▲14.6 |
| 過欠補正    | 37.6    | 13.9  | 5.9   | 19.8    |       |

(出典)経済産業省